

# グループII代謝型グルタミン酸受容体を ターゲットとした新規抗精神病薬の創薬

日時：平成22年7月6日（火） 18:00～

会場：山口大学医学部 総合研究棟1階 S1講義室

講師：奥山 茂 山口大学客員教授

（大正製薬株式会社 上席理事 医薬研究本部・本部長）

参加費：無料

最近、統合失調症治療薬は認知機能改善を狙った創薬が行われている。グループII代謝型グルタミン酸受容体作動薬は N-methyl-D-aspartate (NMDA) 受容体拮抗物質による異常行動および認知機能障害を改善させる。ノックアウトマウスの研究から、異常行動改善作用には mGlu2 受容体が重要であることが示唆されている。実際、mGlu2 受容体のポテンシエーターはフェンサイクリジンおよびアンフェタミンによる異常行動を抑制することからも、mGlu2 受容体が抗精神作用発現に関与していることが示唆される。

グループII代謝型グルタミン酸受容体作動薬は、NMDA 受容体拮抗物質による前頭前野のグルタメートおよびドーパミン遊離を抑制する。また、グループII代謝型グルタミン酸受容体作動薬は 5-HT<sub>2A</sub> 受容体作動薬による異常行動を抑制し、大脳皮質錐体細胞の 5-HT による excitatory postsynaptic current (EPSC) を抑制する。一方、クロザピン、ハロペリドール、M100907 (5-HT<sub>2A</sub> 受容体拮抗物質) は大脳皮質前頭前野において、フェンサイクリジン誘発グルタメートの遊離を抑制しない。従って、グループII代謝型グルタミン酸受容体作動薬は既存の抗精神病薬とは異なった作用機序により、薬理作用を発現している可能性が高い。

臨床的には PANSS を用いた評価では、グループII代謝型グルタミン酸受容体作動薬はオランザピンと同等の治療効果を示し、オランザピンの副作用である体重増加作用もない。現在の臨床試験（フェーズII）が行われている。

グループII代謝型グルタミン酸受容体について、最近の研究動向を含め、講演致します。



主催：山口大学 産学公連携・イノベーション推進機構

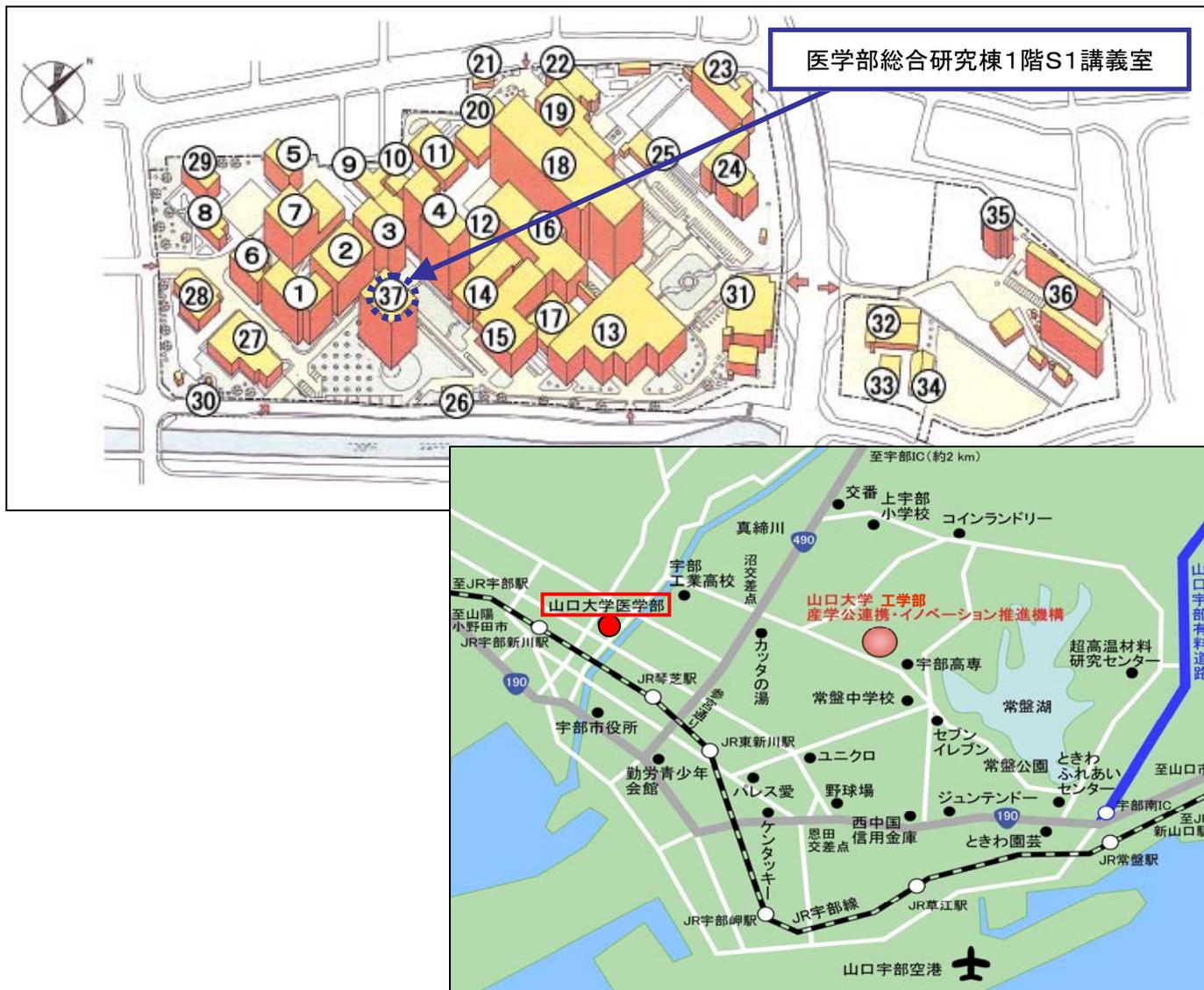
問い合わせ・申し込み先：

山口大学 産学公連携・イノベーション推進機構

TEL：0836-85-9961 FAX：0836-85-9962

E-Mail：yuic@yamaguchi-u.ac.jp

# 会場へのアクセス :



申し込み先 : 山口大学 産学公連携・イノベーション推進機構

TEL : 0836-85-9961 FAX : 0836-85-9962

E-Mail : [yuic@yamaguchi-u.ac.jp](mailto:yuic@yamaguchi-u.ac.jp)

申込表 (本紙をファックス, または同様のフォーマットでメールにてお申込ください。)

↓↓ FAX : 0836-85-9962 ↓↓

名 称	グループⅡ代謝型グルタミン酸受容体をターゲットとした新規抗精神病薬の創薬 (奥山 茂 氏)		
氏 名 (4名までお書き いただけます)			
ご所属			
ご所属住所			
TEL		FAX	